

φ0.1mmを切る製品も可能。大阪唯一の コンタクトプローブメーカー

株式会社喜多製作所

関西
21

ISO 9001

<http://www.kita-mfg.com/>

わずかな誤差が品質を左右するため、
電子顕微鏡等でシビアにチェック

Company Profile

株式会社喜多製作所

住 所 / 590-0535
泉南市りんくう南浜4-27
創 業 / 昭和38年
設 立 / 昭和44年2月
資本金 / 2,400万円
従業員 / 115名
T E L / 072-485-1900
F A X / 072-485-1901

■主な事業内容

コンタクトプローブ製造、エレクトロニクス関連製品、精密金属加工部品などの加工・製造

■主な取引先

アメリカ・中国・アジア・東南アジア・ヨーロッパなどの半導体メーカー、大手電機メーカー、プリント配線板メーカー、プリント基板治具メーカー等



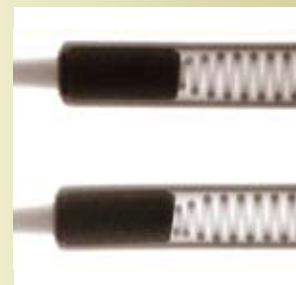
当社のセールスポイント

コンタクトプローブで培った
微細加工技術を、
他分野にも役立てたいのです。

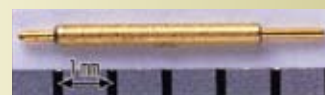


代表取締役社長
喜多 敏明さん

φ0.05mmの微細加工にも対応した加工機を擁し、焼入れ、メッキ、組み立てまで自社で完結できるのが当社の強み。この精密加工技術と生産能力は、様々な分野にも応用可能だと考え、他の業界へもアプローチを試みています。太陽光発電等の環境分野、そして医療分野…。コンタクトプローブのご用途はもちろん、当社の微細加工技術に興味を持たれたら、いつでも声をおかけください。



コンタクトプローブのX線画像。
内部にスプリングがあるのが分かる。



一貫体制で、小ロットにも 大量生産にも対応

コンタクトプローブとは半導体回路の通電検査に欠かせない検査針だ。小指の先ほどのピンにしか見えないが、拡大鏡で確認すると極細のパイプであることが分かる。パイプ内には回路に接触させるための軸と、極小のスプリングが仕込まれている。さらにパイプの内側にはメッキも施されているという。極めて精緻な加工品なのだ。

「今、当社の主流品はφ0.3mm、技術的にはφ0.1mm以下の製品も可能です」と笑顔で語るのは喜多社長。父の代にミシン部品製造からスタートした喜多製作所を、大阪で唯一、全国でも数社しかないコンタクトプローブ専門のメーカーに育て上げた。

現在同社は設計、切削加工、焼入れ、メッキ、組み立て、検査まで、全工程を自社で行う。

「専業とはいえ、ここまで自社生産にこだわる企業は珍しいのではないでしょう」。

プローブを通して、 半導体業界の品質を支える

「お客様に本当に最適な製品を作ろうと思えば、どうしてもカスタマイズ品になるのです」と喜多社長。標準品ならともかく、「一品一様」となれば大手では対応が難しい。そこで同社の出番となる。国内製コンタクトプローブの黎明期から携わる同社では、これまで手掛けた数千枚



φ0.05～φ4.0mmまでの加工機を
100台設置し大量受注にも対応

この一貫体制によって、大量生産にも多品種小ロット生産にも短期で対応可能だ。生産能力は300万本/月。これまで納品したプローブは3億本を超える。

もの設計図面を保存。新規参入企業には真似のできない設計ノウハウの蓄積があればこそ、多種多様な仕様にも柔軟に対応出来るのだ。

また同社はプローブ自体の提案はもちろん、プローブを支える治具のアドバイスまで行なう。大手にはないきめ細やかさと、大手にも拮抗できる生産力が信頼獲得につながり、取引先には世界最大の半導体メーカーをはじめ、錚々たる企業が名を連ねる。

「プローブを通して、半導体業界の品質を世界レベルで支えている、それが私たちの誇りなのです」。

不況や韓国系メーカーの台頭等、コンタクトプローブ市場は厳しさを増している。そんな中、喜多社長は価格競争に巻き込まれず強みを発揮出来る製品の開発に余念がない。

「例えば材料に強い我が国の特長を活かし、環境に対応した材質開発等にも積極的に取り組んでゆきたいですね」。

あくまでも性能や品質で戦う。それが同社のものづくりスピリッツだ。